本を選ぶ

高校図書館版

NO.47 2009年(平成21年) 5月10日
http://www.las2005.com

●発行／ライブラリー・アド・サービス
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 5-20-5-504 TEL=03-3235-6168

ろん・ぽわん

聖地巡礼

2007年の春ごろから、新聞誌面で、鷲宮神社関係の記事が急に多くなりました。キーワードは、「らき☆すた」。サブカルに造詣の深い役場職員に聞いて、「らき☆すた」とは、いまどきの女子高校生の何気ない会話を独特の絵とほのぼのした会話で描いた4コマ漫画で、2004年から月刊アニメ誌に連載され、2007年4月からテレビでも放映されていたことがわかりました。

原作者の美水かがみ氏は鷲宮町の隣・幸手市出身です。4人の主人公のうちの二人が双子の姉妹で、鷲宮神社（作中では鷹宮神社）の神主の娘として設定されています。そして、アニメ『らき☆すた』のオープニングは、制作者の綿密な取材やロケにより、実際の鷲宮神社の風景が描きだされ、ファンの「聖地巡礼」となったのです。

秋には、「らき☆すたって何？」という質問が図書館に寄せられるようになりました。そこで、展示ケースに、職員の息子から借りた『らき☆すた』と、新聞の切り抜きを拡大したものやファンの同人誌を展示しました。第一巻一話目の「チョココルネパンを頭から食べるかしっぽから食べるか」の会話に、「どこがおもしろいのかしらね」と60歳代の女性が感想をもらしていましたが、町の人は半信半疑だったと思います。

2008年正月三が日の神社参拝者は、町の人口の約10倍近くの30万人となり、作中の神主一家へ特別住民票が交付され、8月までに予定数1万枚を交付しました。図書館にも、ファンと思われる人たちが来館するようになり、大体の人が、新聞の切り抜きファイルコーナーへいき、仲間同士じっくりと読んでいきます。時には、図書館で所蔵してしていない関係チラシなどを置いていく人や、もっと資料をあつめるべきと意見をいう人もいます。併設している郷土資料館では、鷲宮神社の由来を調べる人が増えたそうです。そして、今年正月の参拝者は、42万人。新聞の切り抜きも膨大になり、今年の正月からは、日付順に大きな看板に貼り付けていますが、アニメに関心のない方や高齢の方にも、町の動きの一場面をお見せできているのではないかと思います。

町を訪れる「見慣れない人たち」は、穏やかで礼儀正しく、鷲宮神社までゆっくり散策する姿、痛車がたくさん駐車している光景、町を走るらき☆すたシールを貼った自転車等を目にしても、違和感を感じなくなりました。商工会は、この現象を町おこしとして捉え、数々のイベントをうち、北海道大学と産学協同で研究し発展させるとのこと。先日、立派な論文集が図書館に寄贈されました。

埼玉県も、「埼玉発マンガ舞台巡礼展」を企画。今春、鷲宮高校を卒業した隣町の若者が、我が町の町おこしにと独自のアイディアを出して、隣町の商店街を動かし始めたという新聞記事もあり、波及効果も広がっています。

（伊藤 三鶴：埼玉県鷲宮町立図書館）

楽しく・役立つ図書館を目指して

—わくわくドキドキ図書館文化講座—

吉田 浩二

最初の赴任校である宮川高等学校の図書館で働き始めて５度目の新学期が始まりました。春の訪れとともに新入生が入学してくることは学校にとって例年通りの姿ですが、来年度より本校と近隣の高校が統合し新しい学校が誕生するため、今年度は 61 年の歴史を持つ宮川高校として最後の新入生を受け入れる年度となりました。赴任以来、生徒が年々減っていく状況を寂しいと感じていましたが、利用者のために「楽しく」「役立つ」サービスを提供し続けることは司書の努めだと考えています。宮川高等学校図書館の司書として働いた４年間を振り返りました。

学校司書の仕事は幅が広い

赴任した当初は念願の図書館で働けるという嬉しさがありましたが、実際に働き始めると戸惑いも徐々に大きくなっていきました。その原因は、学校司書の仕事の幅の広さを実感したからでした。館内でのカウンター業務やレファレンスサービス、授業での図書館利用、図書館便りの作成、図書委員会活動、文化祭など行事への参加など全てが初めての経験でした。

加えて司書の仕事で最も大切な本を選ぶ選書についても、どのような基準で選ぶのか悩みは尽きませんでした。そのような戸惑いの道標となったのは利用者の声でした。リクエストされた本や、知りたい情報をひとつひとつ真摯に提供することによって、利用者が図書館を信頼し、利用を重ねてもらえる事を実感できました。また、利用者の声を蔵書へ反映させることによって、その学校の利用者に合った図書館へ成長するということも見えてきたように思います。

利用者の声を知るためには、コミュニケーションが欠かせません。赴任したてのころは、図書館に来た生徒全員と話すという目標を密かに立てていましたが、利用者が増えると来館者全員と話すことは不可能ですし、話しかけられることが苦手な生徒がいることが分かりました。そのため基本的には、朝や放課後図書館から帰る際の挨拶と、貸出・返却の際の一言の声掛けと、話しかけてきた生徒の話は出来るだけ聞くようにしています。また、困っていたり迷っていたりする素振りを見せている場合は、こちらから話しかけることにしています。コミュニケーションを気楽に取れるようになった生徒は、学校の中の居場所のひとつに図書館を加えてくれるようになり、気楽に話しかけてくるようになりました。

「次第に明らかになる課題」に挑戦

１年間の学校の流れが分かった初年度が終わり、館内での対応に慣れてきた２年目を過ぎると、３年目は課題の解決に取り組みました。そのひとつは、学年による利用の偏りです。最初の２年間は、三年生の貸出や利用が多く、二年生・一年生の順で少なくなっていく傾向にありました。図書館は教室棟の１階にあり、最も遠い４階に一年生の教室があるという配置の影響があるにせよ、一年生の生徒にもっと図書館を利用して欲しいと考えていました。

その課題の解決に役立ったのが「オリエンテーション」と「授業利用」です。最初、オリエンテーションは、20 分程度の時間を使って利用案内を説明していました。３年目はその時間に加えて、１コマ分の授業を使って図書館オリエンテーションを行いました。内容は、利用案内の確認と棚の中から色々な分野の読みたい本を探してもらうというものでした。授業終了前に書いてもらったアンケートを読むと、様々な種類の図書があることを知るきっかけになったようです。また、授業利用については、図書館の活用法として大切な調べる方法を学ぶ機会ですし、普段図書館を訪れない生徒も図書館に来てもらうことが出来ました。３年目は一年生の授業での図書館利用が増えたこともあり、自然と学年間の利用の偏りがなくなりました。

思いを目標へ

赴任して３年目の年度末に図書館で提供しているサービスを振り返ると、利用のきっかけとなるような図書館からの働きかけが少ないことに気付きました。よって、４年目はその点を意識して分掌内で話し合い、年間計画を作成しました。

本校では年度初めの4月に年間計画や活動目標を立て、中間と年度末の2回、目標を達成できたかどうかを分析することになっています。図書部では、「図書館利用」「資料提供」「広報活動」を三つの柱とし、年間計画を立てました。昨年度の「資料提供」は、リクエスト制度を周知させるために案内板を作り利用者に知らせるとともに、リクエストがあった場合は積極的に応えて行くことを目指しました。「広報活動」は、図書館便りの充実と、新たに図書館のホームページを作成することを決めました。

「図書館利用」については、生徒が本に親しむきっかけを作る図書館を目指し、具体的な方法として挙げたのが、従来から行っていた館内での展示コーナー作りに加えて、推薦図書リストの作成と、図書館文化講座の開催でした。図書館講座がきっかけになって今まで図書館をあまり利用したことのない生徒が訪れたり、楽しい時間を提供することによって図書館に親しみを持ってもらえるのではないかと考えました。昨年度の講座は、一学期に「しおり作り」、二学期に「クリスマスリース作り」でした。

「しおり作り」

6月に行なわれた一学期図書館講座 「しおり作り」は、以下のような流れで実現しました。

4月に図書部の年間計画に図書館講座を盛り込み、5月に講座の案内と参加者を募集しました。まず、職員会議で概要を説明し、教職員の参加を募りました。その後、クラス担任には連絡用のプリントを配り、ホームルームでクラスに連絡してもらいました。連絡用のプリントは、教室掲示用の紙としての役割も兼ねており、見本用のしおりと数名分の申込票を付けました。参加を希望する生徒は申込票を記入して、講座の3日前までに図書館へ提出することで参加受付としました。クラスへ連絡をした同じ時期に、図書委員会を開いて講座の概要を説明し、そこで申込も受付けました。クラス掲示で講座を知ったり、図書館内で講座の準備の様子を見たりして興味を持った生徒や保護者から参加申込がありました。講座当日の朝のホームルームでクラス担任に申込者へ連絡をしてもらい参加の確認を行い、放課後、講座を開きました。

講座には、生徒 14 名（昨年度、生徒数は約 200 名）と教員・保護者が参加しました。最初にしおりの作り方の説明をしました。その後めいめいが、名刺大のカードに、消しゴムで作ったスタンプを押したり、図形や動物など形に切り抜けるパンチで切り抜いた色紙を貼ったり、ペンを使ってイラストを書くなどして、オリジナルのしおりを作りました。それを専用のシートに挟んで、加熱した機械を通してパウチして完成となります。1時間程度の時間でしたが、参加者はしおり作りに没頭していました。生徒が友達や教職員に、自作のしおりをプレゼントしている姿が印象に残っています。

「クリスマスリース作り」

二学期の図書館講座は 11 月の後半に行いました。時期を考慮して、クリスマスリースを作りました。クリスマスリースは学校司書の研修会で、図書館のディスプレーグッズとして作り方を教えていただいた方法で作成しました。クリスマスリースは、ハンガーの芯を丸くしてその円全体に3㎝巾位のビニール紐を巻きつけ、それから細かく裂いてリースに見立て、リボンなどで飾り付けをするという工程です。生徒 15 名と教職員・保護者が参加しました。

まず始めに、ブックトークを行いクリスマスやリースに関連する本を紹介しました。その後、具体的なリースの作り方を、材料・道具・作成例を用いて説明しました。講座の時間は1時間としていましたが、実際には2時間程度必要なため、当日に完成出来たのは終了後も作業を続けた数名で、多くは翌日以降の完成となりました。それぞれ個性豊かなリースが出来上がって、感動しました。

二学期の講座終了後、参加者にアンケートを記入してもらいました。その結果は、大半の参加者が講座を楽しいと感じて、来年度も講座に参加したいと書いてくれました。また講座の後、以前よりも図書館へ気軽に来たり、気軽にコミュニケーションを取ったりするようになった生徒が増えて嬉しかったです。

今年度の講座は校長先生のアドバイスで、地域の方々にも参加していただけるようにして、2回の開催予定です。

（よしだ　こうじ：三重県立宮川高等学校司書）

読書習慣のない男子を惹きつける図書館に

—命や人権をないがしろにする本と、すごくエッチな本以外はリクエストに応えます—

津留 千亜里

私の司書生活は山梨県の高校から始まりました。その後、故郷の熊本に帰ってきて司書を続けています。普通高校2校（通算7年）、工業高校2校（通算10年）を経験しました。司書には、選書の得意分野があり、例えば、あの人はライトノベルに詳しい、あの人はミステリーに詳しいなど、本人の資質や好みによって選書の得意分野があると思います。私は、「津留さんが得意な本は変な本よね」と言われています。

“変”な本に食指が動くのは、もともとの好みもあるのかもしれませんが、工業高校での勤務が長いことも一因ではないかと思います。圧倒的多数の「読書習慣がない男子」を日々意識して選書にあたっているからです。朝の読書があるから仕方なく「なにか借りないと…」とやってきたと思しき生徒に、「これ面白いよ！」と薦められる本があるのは司書にとってありがたいことです。

本校は圧倒的に男子が多く（女子は約六分の一）、図書館に来るのもほとんどが男子です。傾向としては、男子はライトノベル、スポーツ関係の本、女子は恋愛小説やお菓子作りの本などをよく読んでいます。映画やドラマの原作は男女問わず人気です。本校の昨年度の貸出ランキング1位は『死ぬかと思った』（林雄司編／アスペクト）シリーズでした。『空想科学読本』や山田悠介の本なども依然として人気があります。それ以外で、最近受け入れた中から、ちょっと“変”だけど生徒に人気のあった本を紹介します。

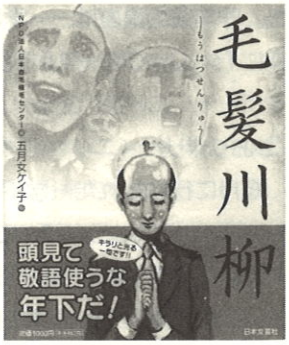
『逆理の発想』（川上賢司著／ビデオ出版）

工業高校なので、「ものづくり」に関する本は広く積極的に受け入れています。その中でも異色なのがこの本です。逆風に力づくで立ち向かう「オチョコ防止傘」、ミニスカートのヒザが開かないように固定する「ひざ開き防止バッグ」、無意識に止めると血だらけになる「剣山目覚まし」、歩いているだけで漬物が漬かる「漬け物サンダル」、カバーをはめれば、どんな熱いものでも食べられる「ネコ舌カバー」…すごい発想力です。「珍道具」の実証写真には思わず吹き出してしまいます。3巻まで、出ています。

『新明快！困ったときのベタ辞典』（アコナイトレコード編／大和書房）

温泉で「はぁ～極楽極楽」、くしゃみのあと「また誰か俺のうわさしてるな」、テレビで「CMのあともまだまだ続きます！」、ドラマで「犯人はこの中にいる！」などなどお約束のベタな言葉や行為の解説と用例がこれでもかと載っていて圧巻です。ベタな言葉をこれほど面白くいじれるとは！　つい「あー、あるある」と声を出してしまいます。姉妹版に『グレイテストヒツツ！困ったときのベタ辞典』があります。

『毛髪川柳』（日本自毛植毛センター編／五月女ケイ子絵／日本文芸社）



生徒からのリクエストで入れた本です。薄毛の悩みを笑い飛ばそうと設けられた「第一回毛髪川柳コンテスト」。そこに応募した、髪の毛への思いのこもった川柳の数々。「頭見て 敬語使うな 年下だ」「愛犬よ その毛を少し わけてくれ」などなど、早乙女ケイ子さんのイラストが絶妙にマッチして笑いを誘います。自虐ネタも多いのですが、読後、不思議とさわやかになれる本です。生徒たちはげらげら笑いながら読んでいます。生徒が、「お父さんの前で読んでみようかな」などとふざけて言い、私が、男性にとって薄毛はデリケートな問題であることを説明する…というのが、この本を挟んでの“お約束”になっています。

『ハズカシメール大賞』（スキマスイッチ編／新潮社）

携帯配信ラジオ番組の人気コーナーから生まれた本。「お前ガス機だ！（お前が好きだ）」「四字熟女の宿題（四字熟語の宿題）」「血痕死体（結婚したい）」「私たち、もう玄関だと思う（私たち、もう限界だと思う）」



などなど誤変換、誤送信、打ち間違いメールにスキマスイッチが突っ込み、更におかしさ倍増！　間違った本人は意図したわけではないでしょうが、まるでねらったかのような面白さと味わいがあります。新着図書案内を出した日の朝、「この本ありますか?」と駆け込んできた生徒が一番に借りました。

『新しい単位 カラー版』（世界単位認定協会著／扶桑社）

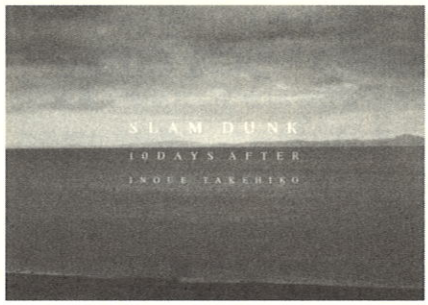
BS フジで放映中の「宝島の地図」内のコーナーを書籍化したもの。「ゴージャスさ」「気まずさ」「憎たらしさ」などにも単位をつけようという、馬鹿馬鹿しくもユニークな発想から生まれました。例えば、ゴージャスさの単位は Pnp（パイナポウ）。「カクテルに生のパイナップルがのっているゴージャスさ」を1Pnpとすると、「ウォーターベッドで眠る夜のゴージャスさ」は 120Pnp。他にも、「インスタント焼きそばのお湯を捨てる面倒くささ」の単位は1Yg(イチユギリ)、「羽生名人の寝癖頭のだらしなさ」は1Hb（ハブ）などなど…思わず納得し、時に脱力の一冊です。この本のイラストも五月女ケイ子さんです。



「Switch Vol.23 No.2」（スイッチ 2005 年 2 月号）掲載特集記事「**井上雄彦　スラムダンク、あれから10日後**」（スイッチ・パブリッシング）

「変」ではありませんが、黒板に描かれた漫画の写真が掲載された雑誌なので、いっぷう変わっています。

高校生との年齢差は開く一方で、最近は共通の話題もなかなか見つかりません。でも『スラムダンク』をカッコいい！ 面白い！ という気持ちでまだつながれることを、本校で再確認しました。『スラムダンク』のすごさを感じます。スラムダンクが大好きな生徒にも意外と知られていなかったのが本書です。最終回から 10 日後という設定で、井上雄彦さんが神奈川県の閉校になった高校の黒板に描いた漫画です。4月に『スラムダンク　あれから10日後―」完全版』（フラワー）も出版されました。



もちろん私が選ぶ“変”な本も万能ではなく、当たり外れがあります。貸出が少ない時は、生徒の気持ちをつかめていないのかなぁと自信をなくします。ただでさえ、新人の頃、選書がひとりよがりだと先輩に指摘されたことがある私です。それ以来、生徒の「読みたい」という気持ちをなにより優先するようになり、本のリクエストにひたすら応えてきました。図書館オリエンテーションでは、「命や人権をないがしろにするような本と、すごくエッチな本以外はリクエストに応えたいと思います」と宣言しています。

本校の昨年度のリクエスト件数は 368 件でした。取り置きは 470 件、年間受入冊数は 1,504 冊、本を借りた生徒の割合は 78.4%、生徒一人当たりの貸出冊数は 12 冊でした。

勤務は５年目になりますが、２年目までは貸出が全然伸びませんでした。工業生との付き合いが長くなるにつれ、選書でヒットする確率が高くなってきたように思います。司書をしている限りは、書店で目を皿のようにして「これ面白いよ！」と生徒に薦められる本を探す日々が続くことと思います。

生徒たちが３年間で心身ともにみるみる成長していくさまには目を瞠ります。視野も広がっていく、そんな年頃の高校生の関心を図書館に引き付けるのって難しいなぁと常々感じています。工業高校も普通高校も同じでした。だからこそ、生徒の「面白い」にはまった本を提供できた時は喜びもひとしおです。その嬉しさが仕事の原動力になっています。

（つる　ちあり：熊本県立八代工業高等学校司書）

「図書館で働きたい」という生徒の選択肢の一つになる仕事を

松橋　幸子

我が校は今…

秋田県北部を代表する進学校である我が県立能代高等学校は、生徒数690名・各学年6クラス・男女共学の普通高校です。

平成19年度から学校運営や指導方法を根本から見直し、キャリア教育導入を含めた学校改革「Will Project」を実践しています。それは、「従来の"与える"指導だけでは限界があるのではないか」。また「社会で本当に活躍できる人材の育成に目を向けるべきではないか」という、生徒の現状を踏まえた課題の中から生まれ出た将来構想プロジェクトです。プロジェクト名の"Will"には「～になりたい」という各自の夢や願いとともに、「自分だけでなく～のために～をしよう」という"志"を育む学校を目指すという思いも込められています。我が校の教育活動すべてに関わる将来構想である「Will Project」には、〔1〕基本的生活習慣の確立、〔2〕己を知り、他を知り、社会を知ることで学びの意欲を高める、〔3〕学習指導の改善、〔4〕文武両道の堅持　の四つの指導の柱が設定されています。特に〔2〕においては「総合学習」の時間を3年間一貫したプログラムとして再構築し、1学年の「社会人講話」や「職業・大学の学部・学科研究」、2学年の「インターンシップの実践」といった活動を積み重ね、3学年の将来の仕事を視野に入れた進路実現の指導を行っています。

図書館の現状は…

図書館は、蔵書数約23,000冊。昨年度の貸出冊数2,974冊。購入冊数402冊。開館時間は午前10時25分～午後5時10分です。周囲に高い建物のない場所に立つ校舎の3階にあるため見晴らしも良く、窓の外には世界遺産の「白神山地」の姿や田んぼの中を通る電車、高速道を走る車といった、のどかな風景が広がっています。また近くに渡り鳥が飛来する沼があり、季節になれば鳥達の見事な隊列も見ることが出来ます。学校の中で一番景色が良く気分転換や読書に最適の場所と思っているのですが、残念な事に一日の利用者は、平均30名前後とあまり多くはありません。自習室が別にあり勉強する生徒の大部分がそちらを利用すること、部活その他で忙しい生徒たちは「本を読みたいけど時間がない」とか「図書館に行く時間がない」ということで、なかなか図書館へは足が向かないようです。

それでも図書館の存在をアピールしようと、昨年度は"癒しとサプライズのある図書館"を目指し館内の模様替え等をしてみました。窓を塞いでいた高い書架を壁際へ移動、古い本の除架や廃棄、観葉植物で癒しを演出、毎月テーマを決めた展示コーナー、古今東西の名言を集めた"名言くじ"、生徒の声を反映した選書等々。こんなささやかな工夫でも効果があったのか、貸出冊数が前年比1,300冊増、一人当たりの平均貸出冊数も2.3冊から4.3冊へと伸ばすことが出来ました。今年度は、（本好きな利用者は大切にしながらも）「図書館＝読書、図書館＝貸し本屋」的イメージから一歩進んで「情報・学習センター」として「困った時は図書館」「知りたい時は図書館」「生徒はもちろん教職員にも役に立つ、頼りにされる図書館」を目指したいと思っています。早速、一年生には4月末のオリエンテーションからそのことを強調しました。それに加え、利用しやすい配架やわかりやすい案内板、関連図書や資料収集及び蔵書構成を念頭に入れた購入計画、要領の良いレファレンス等を工夫して行きたいと考えています。

そして、学校司書として…

秋田県では、平成19年度から非常勤職員ながら「学校司書」としての採用があり、選考試験を経て「学校図書館活性化モデル校」を中心に平成19年度4名、平成20年度3名、平成21年度3名の計10名が配置されました。

私にとって昨年度は採用1年目ということもあり、司書教諭との協働のあり方や学校司書の専門性、

1年更新の仕事の先行き、学校の中での図書館の位置付け等、考え込むこと戸惑うことばかりが多く、「一歩一歩進んで行こう！」そう自分を励ますことで過ぎて行きました。2年目となる今年度は「一歩下がって二歩前進」。学校図書館法に「学校の教育課程の展開に寄与する」とあるように、学校図書館の教育に果たす可能性を信じながら、まずは一歩下がって学校の動き（目指すもの）を確認（理解）し図書館の入っていける隙間（可能性）を探してみようと思うのです。我が校の「Will Project」にも手伝える事があるかもしれません。また、「学校司書」という仕事はまだまだ職域が明確と言えませんが、「図書館で働きたい」という生徒の選択肢の一つになる確かな仕事にして行かねばと思います。そのためにも、司書教諭と学校司書が互いの持ち場を尊重しながら協働していく体制を確立して行くと共に、眼から鱗がぼろぼろ落ちる本、たった1冊でもずっと心に残こる本を利用者にそっと手渡せるよう、多くの人に図書館の大切さを伝えられるよう、様々な情報や機会を利用して司書としてスキルアップを図っておこうと思います。

（まつはし　さちこ:秋田県立能代高等学校司書）

DMかたろぐ

図書館必備！
日本人の暮らしに生きる年中行事のすべて。
3100項目を網羅した、最大の本格的大百科誕生。
年中行事大辞典
発売中

加藤友康 高埜利彦 長沢利明 山田邦明 編
特価27300円（10年1月末まで）定価29400円
古代から現代まで日本列島各地でくり返されてきた年中行事。宮中・公家・武家・寺社や民衆の中から生まれた多彩な行事を、歴史・美術・民俗学などの最新成果を取り入れ、豊富な図版を駆使して平易に解説。日本文化を読み解く〈年中行事〉百科の決定版。〈内容案内送呈〉
価格税込
東京都文京区本郷七―二―八
電話〇三―三八一三―九一五一
吉川弘文館

山川出版社　新刊案内
いよいよ刊行！
2009年4月20日発売
思想を通して、日本史を捉える！！
日本思想史辞典
代表編者：石毛忠・今泉淑夫・笠井昌昭・原島正・三橋健
8,925円（本体8,500円）　菊5判　約1,168ページ　上製・箱入り
項目数：約4,700項目＋見出しのみ項目を約1,100立項
◆日本史上における人間生活の諸分野をおおう思想を、包括的にとりあげた画期的な辞典。
◆最新の学問的成果をとりいれ、各分野の専門研究者約160名が執筆。
◆思想史学の人物・著作物はもとより、政治・経済や芸術・芸能など、広範囲にわたって項目を採録。
山川出版社　〒101-0047　東京都千代田区内神田1-13-13　TEL03-3293-8131
FAX　03-3292-2994

ジュニア英語名作ライブラリー2009
英語版 偉大なアーティスト・シリーズ
DK バイオグラフィー・セット
はじめての多読シリーズ
英語で読む世界の文学全集シリーズ
英語版 ハリー・ポッター・セット
英語版 指輪物語・セット
英語版 ナルニア物語・セット
株式会社 三善　〒167-0032　東京都杉並区天沼2-2-3
TEL:03-3398-9163　FAX:03-3398-9170

世界を知る基本に
改訂新版
世界大百科事典
全34巻　定価283,500円（税込）
〒112-0001 東京都文京区白山2-29-4
㈱平凡社　営業部　☎03-3818-0874

人類発祥の地にいま生きる人々
身体装飾の現在1
定価12600円

植物の百科事典
石井龍一・岩槻邦男ほか編
定価21000円

石材の事典
鈴木淑夫著
定価9240円

食品安全の事典
日本食品衛生学会編
定価24150円

漢字キーワード事典
前田富祺・阿辻哲次編
定価18900円

'09総合図書目録です。ご活用下さい。

朝倉書店 東京都新宿区新小川町6-29 〒162-8707 ☎03-3260-7631

Design くらしとデザインの本



装飾、車、家具など、さまざまなデザインを考察
①デザインのいろいろ
②デザインの現場から
③これからのデザイン
日本デザイン機構・編

【全3巻】A4変型判/56～66頁 ISBN978-4-265-10474-1
NDC 757 ●揃定価10,080円(揃本体9,600円＋税)

岩崎書店 東京都文京区水道1-9-2 TEL.03-3812-9131 http://www.iwasakishoten.co.jp

限りなく広がる知識の世界 辞典750点突破!



地下鉄の謎と不思議

谷川一巳著 開業当時の地下鉄は様々な過酷な条件下にあったが、今日までに、どのように近代的な地下鉄に進歩したかを振り返りながら、日本で最初に開業した東京メトロ銀座線から最新リニアモーター方式まで全国の地下鉄路線・車両・駅などの変遷、特徴などを最新情報を網羅し詳しく解説。海外の地下鉄事情も紹介する。

四六判 272頁
定価1680円(税込)
〈最新刊〉

東京堂出版 〒101-0051東京都千代田区神田神保町1-17 ☎03-3233-3741 http://www.tokyodoshuppan.com

特別支援教育をすすめる本

全4巻 B5判美装カバー/各2625円
成長段階別に支援方法を紹介する1～3巻と、テーマごとにクイズやチェックで発達障害への理解を深めるワークブック形式の4巻で構成された全4巻



①こんなとき、どうする? 発達障害のある子への支援 幼稚園・保育園
内山登紀夫／監修 諏訪利明・安倍陽子／編
②こんなとき、どうする? 発達障害のある子への支援 小学校
内山登紀夫／監修 安倍陽子・諏訪利明／編
③こんなとき、どうする? 発達障害のある子への支援 中学校以降
内山登紀夫監修 中山清司／編
④知ってる? 発達障害 ワークブックで考えよう
細川佳代子／プロデュース

ともこちゃんは銀メダル 細川佳代子／お話 東郷聖美／絵
スペシャルオリンピックスに出場した少女の感動的実話。1890円

ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町1 TEL075-581-0296 ※価格税込

NO. 26
部落解放・人権図書目録
2009 A5判／126頁／頒価300円(税込)
●2008年11月までに刊行(予定も含む)されている書籍約1,120点を紹介。ISBNコード付。
項目
《部落問題》総記・事典／現状／運動／教育／行政／歴史／文化・思想
《人権》基本的人権／人権一般／性差別／他
部落解放・人権関係雑誌一覧
書名索引・著者索引・掲載出版社名簿
●書店様にてご注文ください。
部落解放・人権図書目録刊行会
〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24 トーハンビル内
TEL 03-3266-9521

"現代ドイツの知性"エンツェンスベルガーがおくる
がんこな
ハマーシュタイン
ヒトラーに屈しなかった将軍



ナチ時代に戦争嫌いの将軍がいた……。
H・M・エンツェンスベルガー 著
丘沢静也 訳
四六判上製448頁 定価●2730円

晶文社 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-1-12 電話 03-3255-4501 http://www.shobunsha.co.jp/